



うばサにゃんこ



BAKEMONOGATARI FAN BOOK
RenAi Mangaka Presents For Adult



つばさにゃんこ



BAKEMONOGATARI FAN BOOK
RenAi Mangaka Presents For Adult



阿良々木くんが、妹2人とも食ったらしい。
処女を食い散らかしたらしい。

最初に気付いたのは神原だった。
既に阿良々木くんの目の前で
神原の処女を散らし
3人でやりまくりだったのだが。
処女を失った直後の私や神原自身の様子と
そのときの姉妹の様子がダブって
見えたらしい。



ズバツとセックスしたのか聞いたら、
素直に答えたらしい。
しかも、相手は彼氏ではないらしい。
そうすると、相手は一人しかいない。

極度のブラコンとシスコンが
一線を越えたのだ。

もしかしたら、神原とのセックスで
彼に禁忌を犯させるスイッチを
入れてしまったのかもしれない。

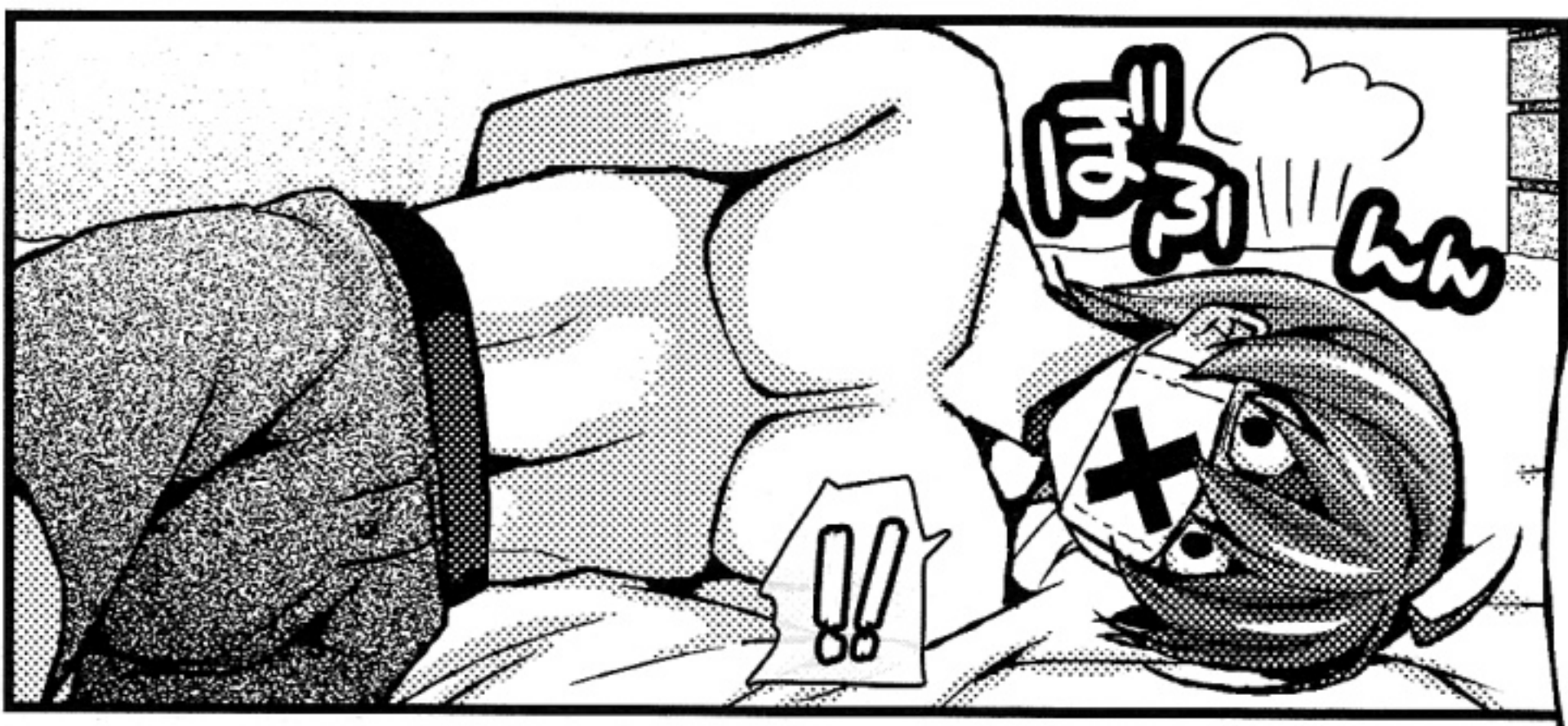
…軽い絶望と、暗く重い悦びが身を包む。



こうなれば。
私は
親友であり類友でありライバルでもある
彼女。
羽川翼を、巻き込むしかないじゃないか。

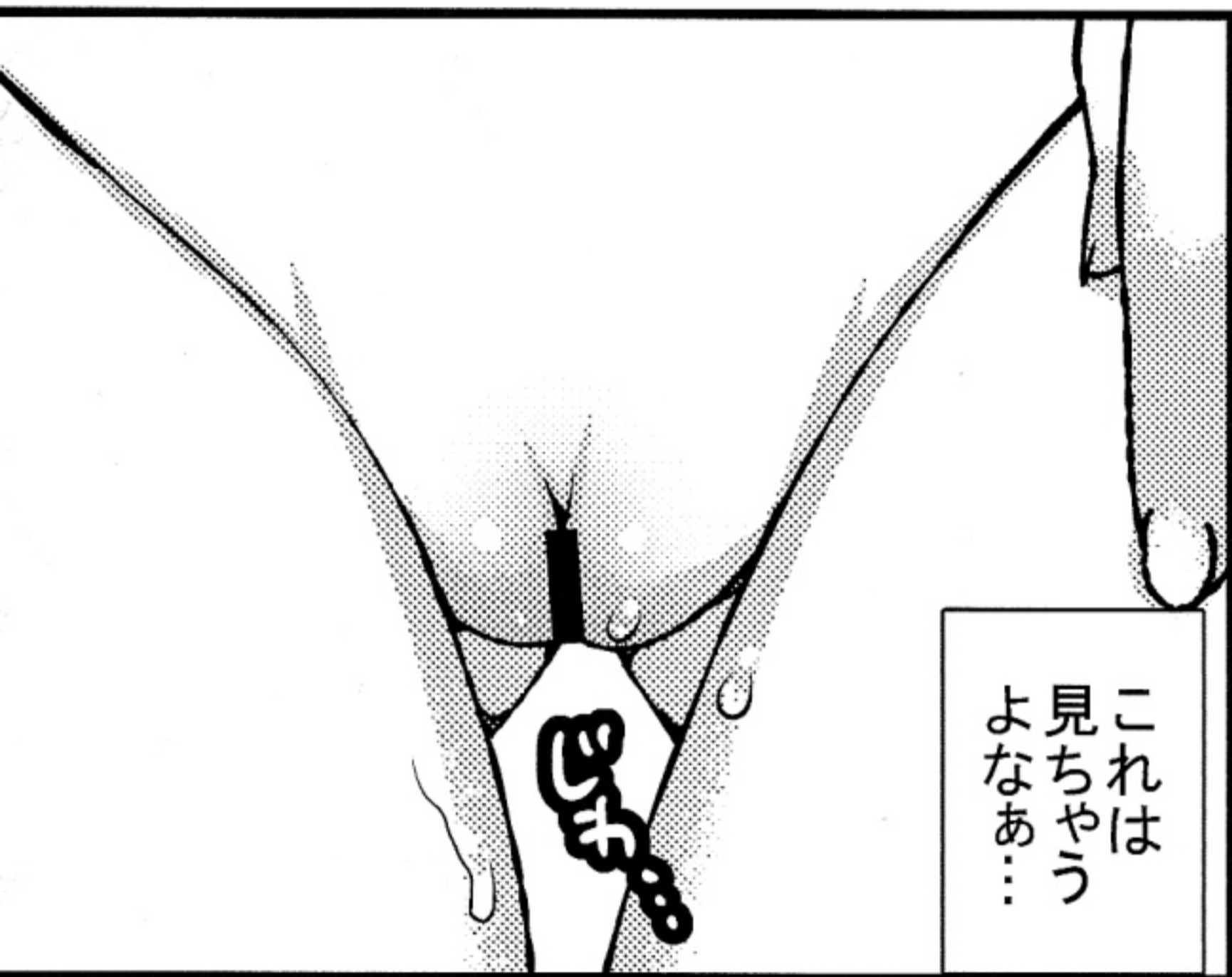
彼女は、長い葛藤の末、提案を受け入れた。
彼女が頷いた時、既に私の下着はグッショリ
濡れていた。

そして、裁判。
被告人に猿轡して縛り上げ
発言権を奪って。
始まった。

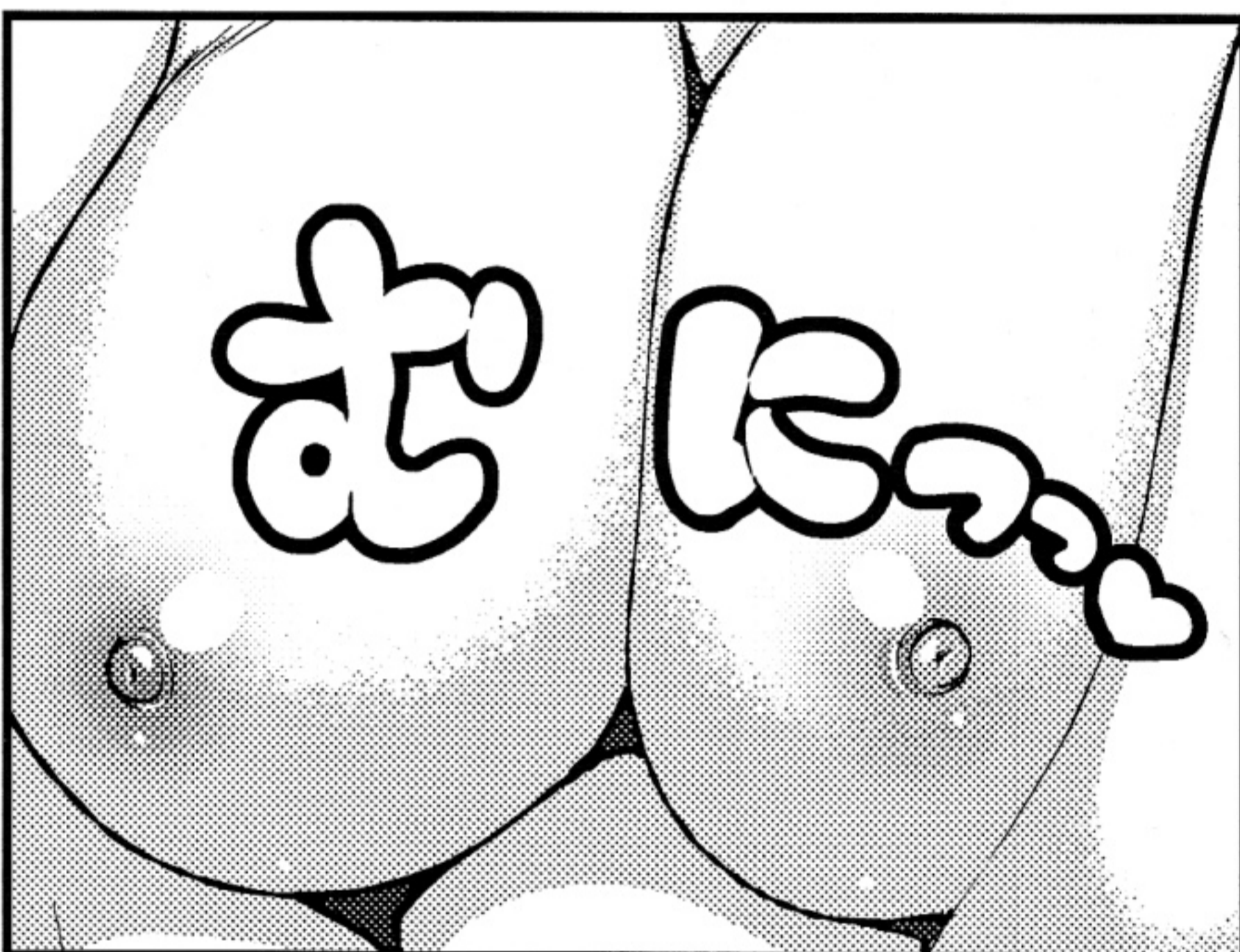




いや…でも
見るなと
言われても



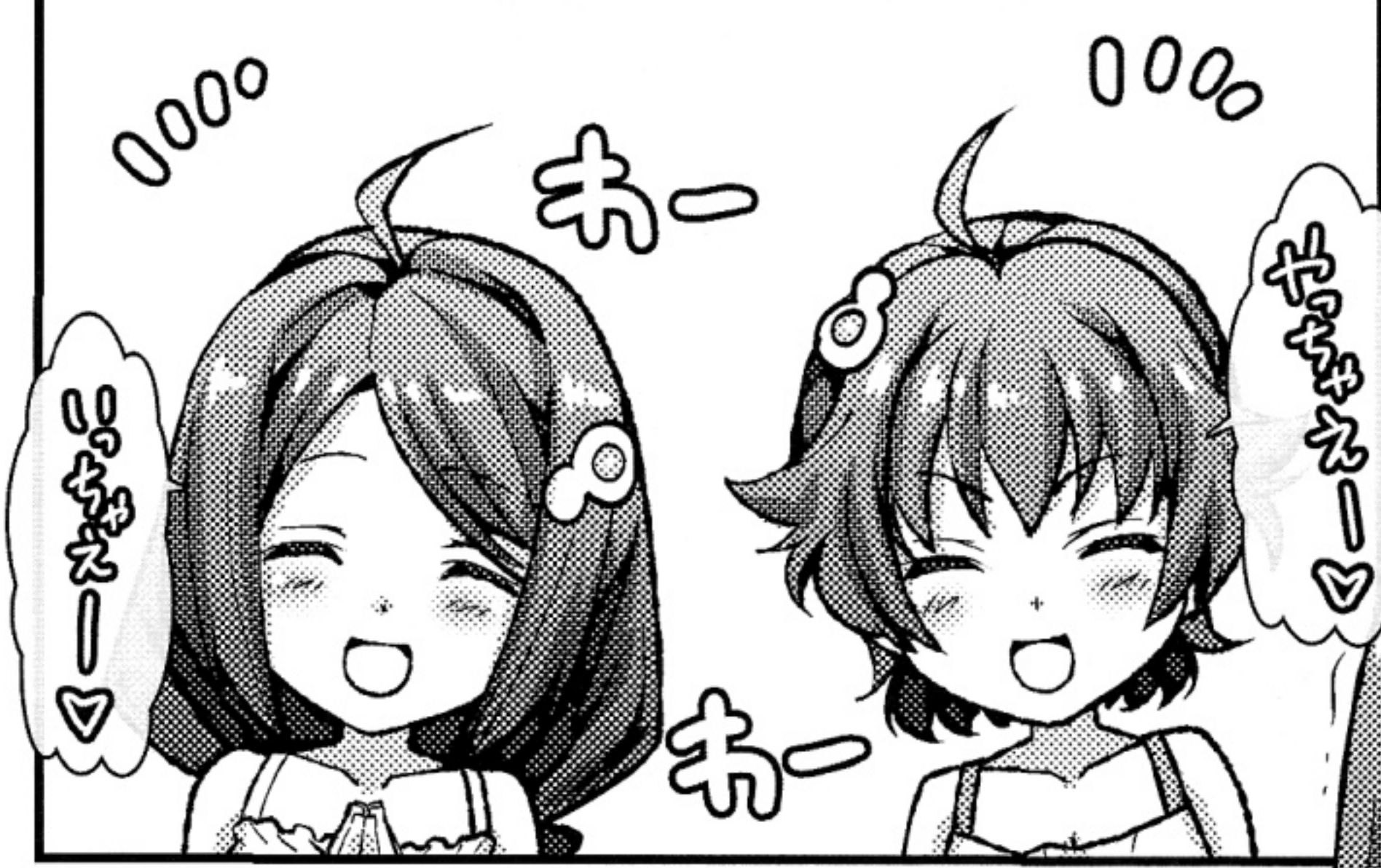
これは
見ちゃう
よなあ…



まずは
放置プレーの刑
だからね



さて







阿良々木くんのロープを切る。

「さてさて」

「いよいよ本番よ」

楽しいので浮き浮きしながら告げる。

「ホントいつもながらむちゃくちゃだな！」

「あらあら、本当は嬉しいくせに」



あら、なんだかカップルの会話だ。

「…羽川、本当にいいのか？」

「うん、まあ色々と考えたけど覚悟を決めたから。」

「…でも阿良々木くんが嫌なら止めるけど」

ちらりと上目使いで問う羽川さん。
やるじゃないの。



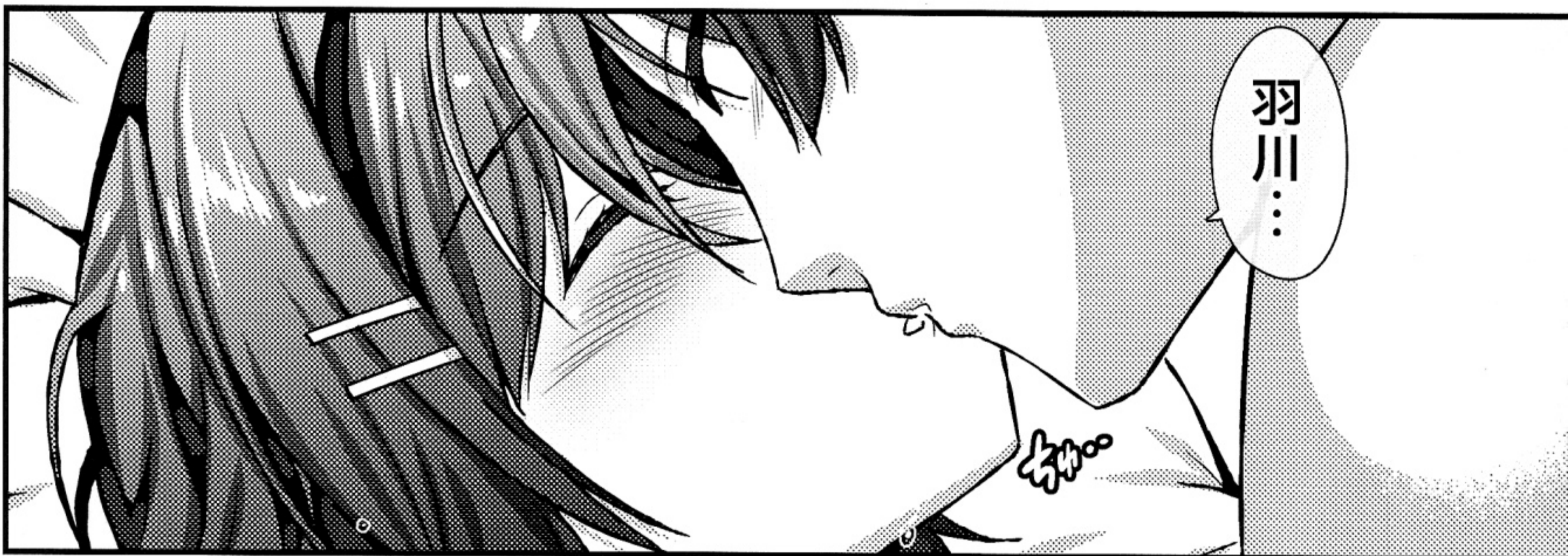
「とんでもないですありがたく抱かせていただきます」

「こちらこそよろしくお願いします」

見事な土下座同士。

とうとう、初恋で恋焦がれた同士が繋がる。

私の股間に雫が流れた。





なんと
柔らかさ…



おお…
圧倒的な
ポリユーム感

ぽんぽん



濡れてる…
気持ちいい?

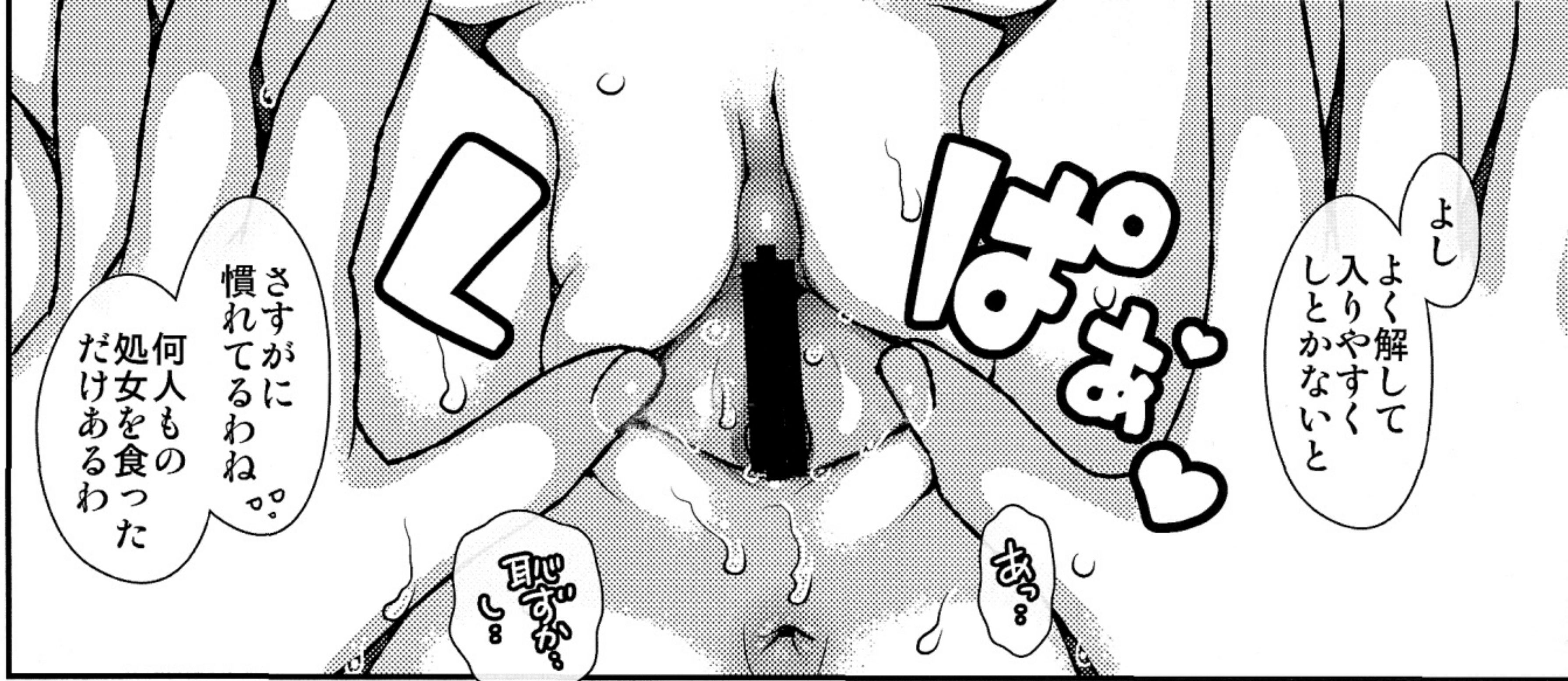
ぬるぬる



他の人に
触られるのって
こんなに
気持ちいいんだ…

ぽんぽん

あ…うん…
上手だね
阿良々木くん



よし
よく解して
入りやすく
しとかないと

さすがに
慣れてるわね

何人もの
処女を食った
だけあるわ

恥ぢ

あゝ



処女膜は
傷つけない
絶妙な
力加減だ

キツチリ
解しつつ

んんん

ぐぐぐ

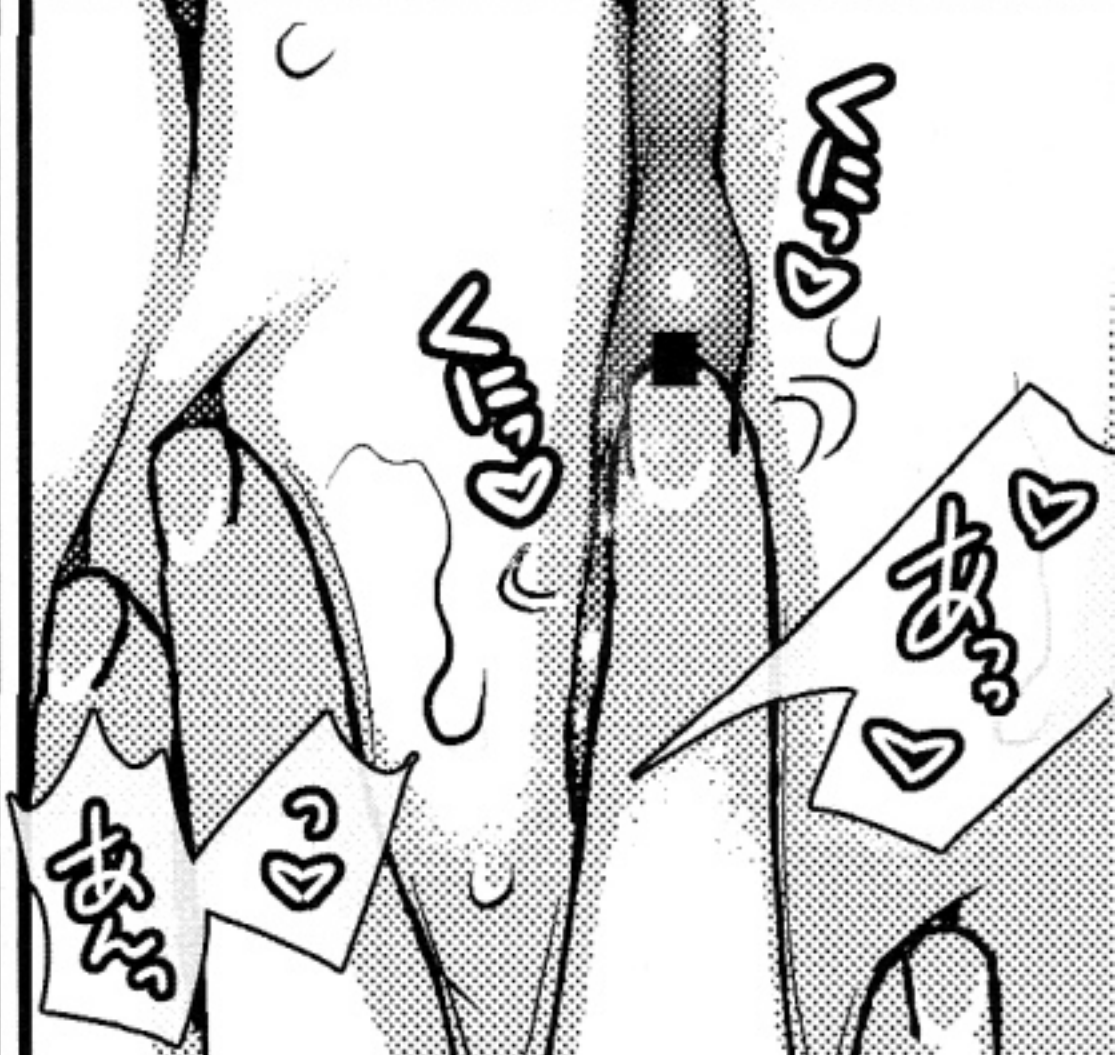
ん

あゝ

あゝ

ぐぐぐ

あ



それじゃ
いくよ

ガンバレ
翼さん!

ありがとう
頑張るね



くっ...

んんん

んんん

あゝ...

大きいのが
入ってくる...

ぐぐぐ



あゝ



あ...

あ

あ

あ

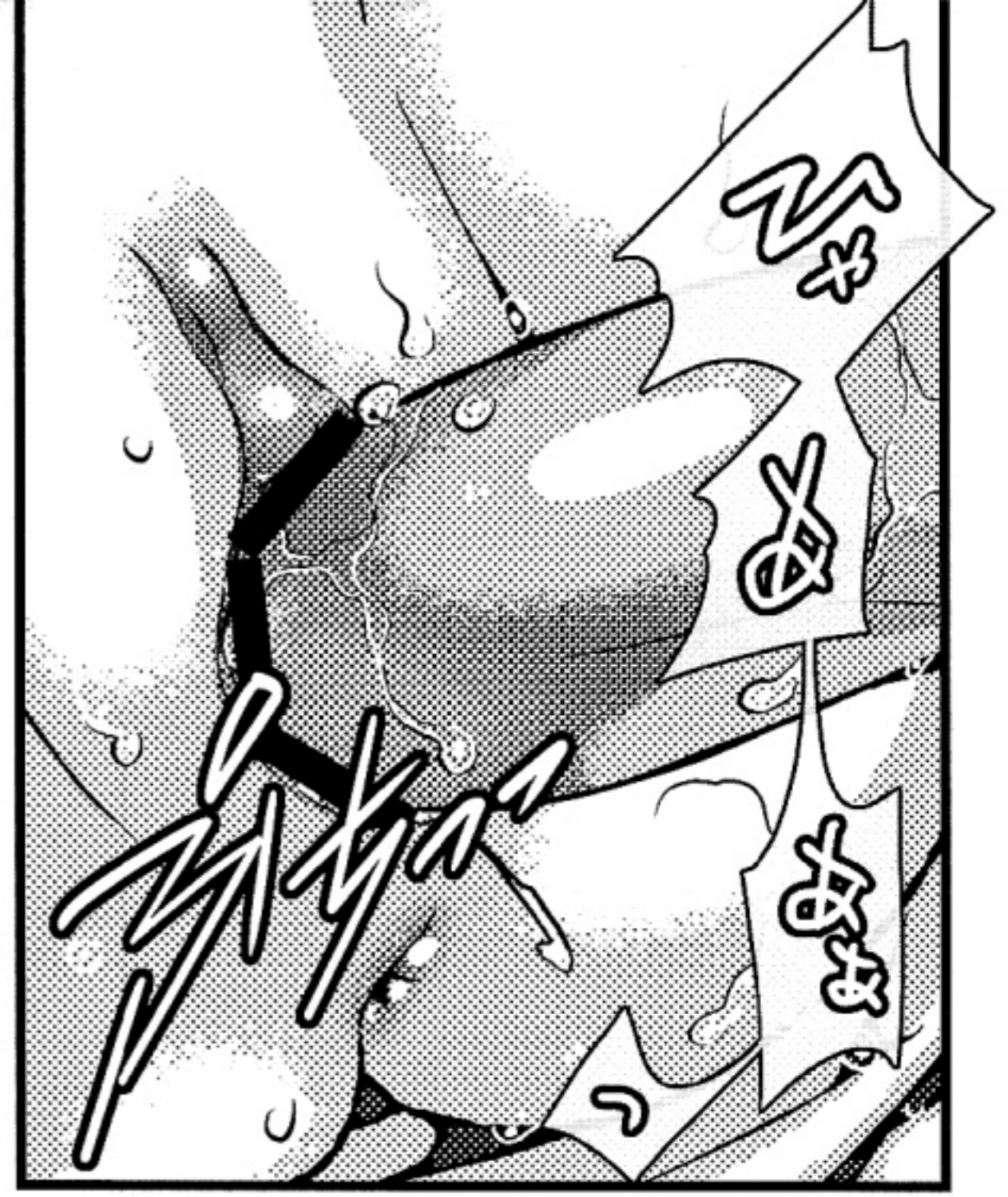
あ

あ

翼さん
オメデトー

ふふふ...
全部
入ったわね

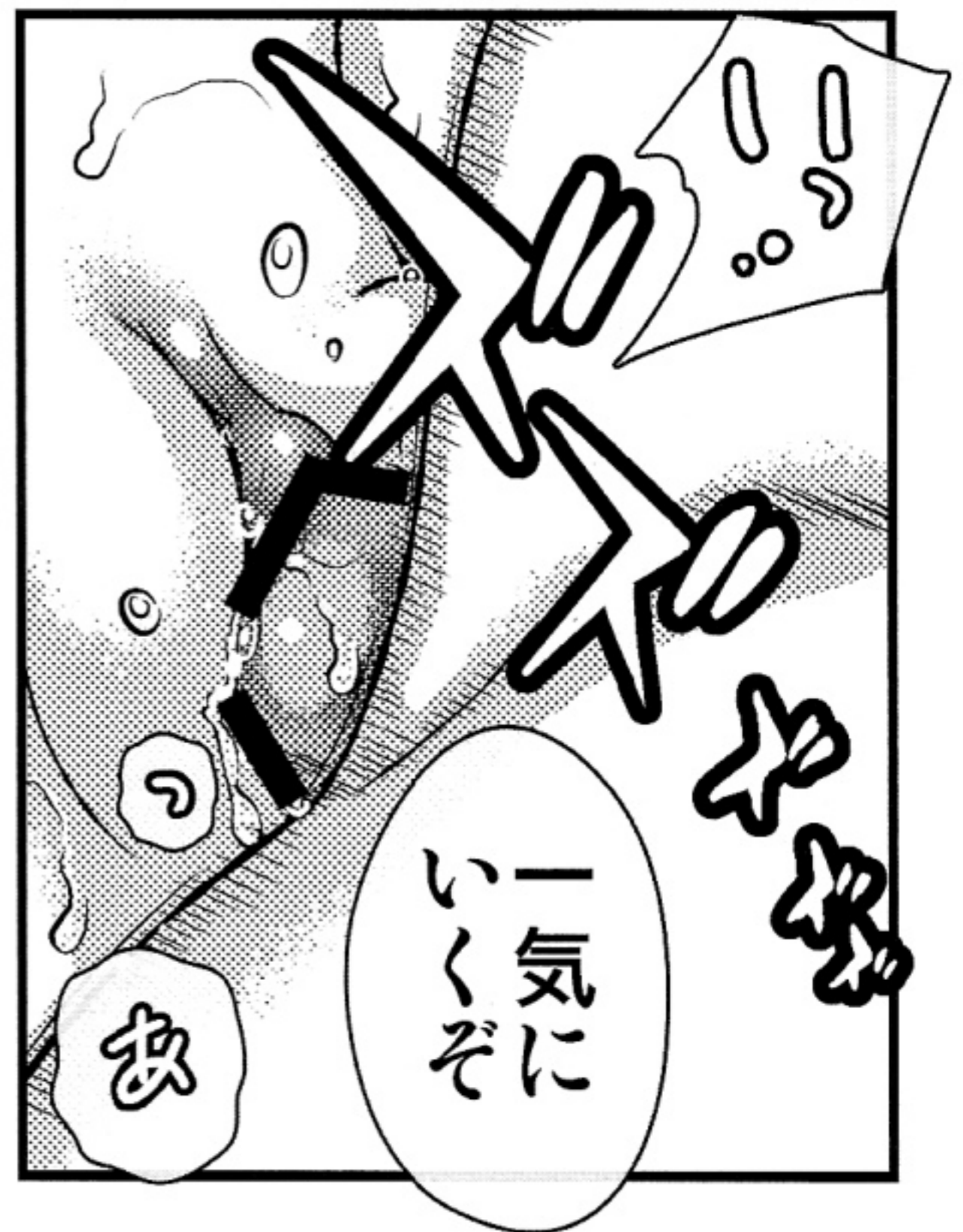
わっ



あ

あ

あ



あ

わっ

一気に
いくぞ

あ



あ

あ

阿良々木くん
落ちてから
動いていいよ

ぬ



あれ
なんだか
恋人のような
やりとり...

まさか羽川と
こんな事にな
るとは...な



あ

あ

あ

あ

胸を刺激して
痛みを紛らわせるか

やあん
感じちゃうよ
阿良々木くん





なんだから
初めての感覚で
よく分からないけど

お・な・ま

は・は・は♡

はっ♡



これは…
すごい！

はっ♡

はっ♡

はっ♡



ぱんぱんって
突かれるのよ
いやらしいよ

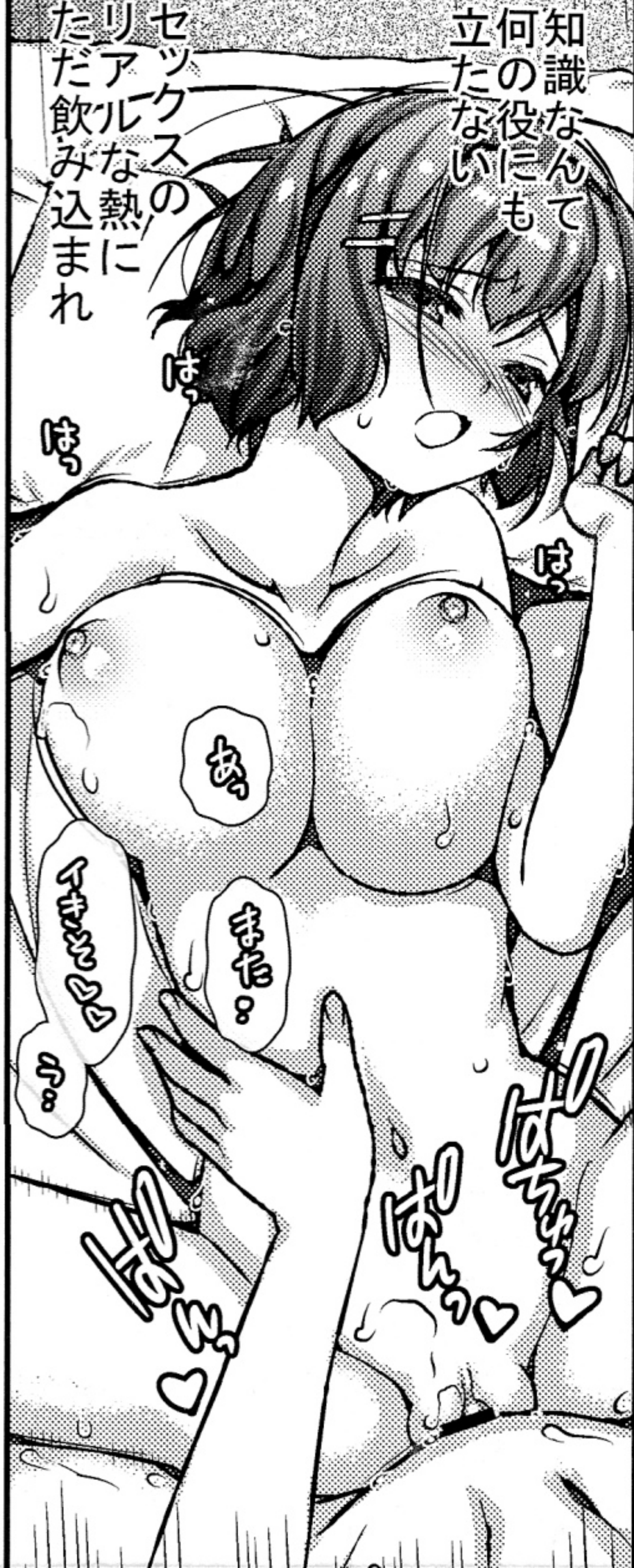
はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡







「さてさて、阿良々木くん。マイダーリン」

恐る恐る顔を上げると、そこには顔を真っ赤にした自分の彼女がいた。

「な、なんででしょうかマイスイートハニー」

「あなたは自分の彼女がおまんこを濡れ濡れにしてるのに、放っておくつもりなの？」

確かに濡れ濡れだった。

「神原への嫉妬なんて目じゃないくらい妬いたもの」

なんて可愛らしいことを言う。

「兄ちゃん！ 彼女へのご奉仕が終わったら姉妹も相手しろよ！」

「私たちがびしょ濡れなんだからね！」

…まだまだ頑張らなきゃいけないようだ。

END

お久しぶりです。
祝セカンドシーズン！
本もまだまだ作りたい！
ではでは短いですが時間切れです。